

精神科学の立場から見た子供の教育

現代は、人類が祖先から継承して来たものに対して、様々に疑問を抱くようになってきている。それゆえ多くの「現代的問題」「現代的要求」が生じて来る。どのような「問題」が今日世界を覆っているのかというならば、社会問題、女性問題、教育・学校問題、権利問題、健康問題等々……。これらの問題を解決しようとする試みが、様々な手段で為されている。あれやこれやの問題を解決しようとするために、また少なくとも解決に貢献するために、様々な処方を持って現われる人間の数は限りなく多い。そして、人間の気分の実に様々なニュアンスの違いが、そこに姿を現わして来る。革新的態度をとる急進派、現存しているものを尊重しつつ、そこから新しいものを発展させようとする穏健派、古い組織や伝統に手をつけられると直ぐに興奮する保守主義者……。そして、これらの主流と並んで種々様々な中間段階が存在するのである。

人間の中へもつと深く視線を沈めることのできる人は、こういう一切の現象を目にして一つの感情を抑えることができない。それは、人類に向けて提出されている様々な要請に、多くの人達は

ただ不十分な手段によって対応しているに過ぎないという感慨である。多くの人達は現実を本当に根底から知らないでいて、それにもかかわらず現実を変えたいと思っている。将来に何が起こるべきであるかを提議したいと考えている人間ならば、現実の表面だけを知って満足することは許されないだろう。そういう人は、現実の深部を探究しないわけにはいかないのである。

総じていえば人間の生は、ちょうど植物のようなものである。植物は現に目に見えている部分だけでできているのではなく、目に見えない深部に未来の状態を隠し持っている。今ようやく葉の生じたばかりの植物を前にしていても、その葉が出ている茎・幹から暫くすると花や実も出ることは、誰もがよく知っている。この植物はこの時既に、秘められた部分に花や実になる性向を持っているのである。差し当たって目の前に見える植物のみを探究しようとする限り、一体どうして、未来に生ずる諸器官がどのような形態をとるかということをや云々できようか。それができるのは、ただ植物の本質を知り抜いている者のみなのである。

総体としての人間の生もまた、その未来の基盤を自らの中に含み持っている。しかし、この未来について何かを語るためには、人間の秘められた本性を突き止めねばならない。だが我々の時代は、そうしたいという本当の願望は、何も持ち合わせていない。我々の時代はもっぱら表面に見えるものだけに捕われており、外面的観察の及ばない物を探究しようなどとすればたちまち確実な地盤を失ってしまうと信じているのである。植物の場合、事は確かに遙かに単純である。人は同じ植

物が何度花をつけ、何度実をつけたかを知っている。けれども人生はただ一度しかない。そして未来においてつくはずの花は、今まで一度も咲いたことがない。しかしその点を別にするならば、人間の未来に咲く花も、ちょうど葉の出始めている植物の中に既に未来の花の素質が内在しているのと同様に、彼の中に素質として内在しているのである。

人間本性の表層の下まで入り込み、人間本性の本質にまで肉薄するならば、いま述べた意味での人間の未来について何か言える可能性がある。現代の様々な改革は、人間の生のこのような深い探究を基盤にして為される時初めて実際に実りある、実際の役に立つものになり得るだろう。

これ以降は、ご購入の上、お読みください。

みくに出版

精神科学の立場から見た子供の教育

ISBN978-4-8403-0397-2 C3010